

当時を語る長瀬文雄氏



前倒産から20年

教訓を未来につなげるシンポジウム

10月13日 堺市立人権ふれあいセンターにて開催

前倒産から20年の節目にあたり、みみはらグループ各事業所の職責者、同仁会理事・評議員、友の会役員さんを中心に、教訓を未来につなげるシンポジウムが開催されました。1998年の同仁会前倒産から21年、セラチア菌院内感染事故から19年が経過し、当時を経験した職員が少なくなっています。当時の教訓を風化させずに未来につなげよう、のメッセージを次の世代に引き継ぐことを目的に130人が参加しました。

前半では当時専務理事として再建の先頭に立たれた長瀬文雄氏を招いての講演、後半は穴井専務をコーディネーターに、4人の方（耳原総合病院/奥村病院院長、耳原病院労働組合/米村副執行委員長、健康友の会みみはら/江戸会長、講師/長瀬文雄氏）によるディスカッションが行われました。

来年2020年、耳原実費診療所開設から70周年を迎えます。創立以来のさまざまな困難を乗り越えてきた「みみはらグループ」の歴史を風化させないための取り組み企画を計画していく予定です。

これからは伝える側に

参加者からは「教訓を忘れず日々の業務に励みたい」「今回あらためて事実経過を理解することができた。理念、情報、目標の共有と民医連のシャワーを降り注ぎ続ける職場づくりが大切と実感した」「地域や全国の仲間への応援などがありに至っていることを感じ、次の世代にどう伝えていくかが役割だと思った」「理事長のおっしゃった一人で決めない、一回で決めない」ということは大事な事だと思えます。

今回、職員及び管理運営の立場でシンポジウムに参加し、前倒産・セラチア菌感染事故の公表及び建て直しに尽力された先輩たちは、私の今の数十倍の苦労と努力を費やしたのだらうと考えると、頭が下がります。

2003年10月に老健みみはらに就職しました。前倒産・セラチア菌感染事故については、直接関わることがなく、医療介護安全大会などの参加の際にきく程度の認識で、10年ほどは目の前の利用者さんの事で精一杯でした。

シンポジウムでの、長瀬氏の「経営は我流になってはイケない」、池田先生の「真実を全て公表する」、この2つは私にとって後輩に伝えて行きたいと実感しました。

同仁会は、前倒産を一度と起こさないために、全職種の給与体系改定や介

護職種体系の見直しをすすめてきました。その際には、何度も幹部が説明に来てくださり、なぜ必要なのかを話して下さった事は印象に残っています。

2018年4月より老健みみはらの事務長となり管理運営を担うことになりました。利用者さんの安全を守る。職員の雇用・賃金を守る。法令順守を図る。この3つを重点に置き事業所運営に関わってきました。

今後には伝える側に回り、先輩が培った経験を伝えられるよう努力してまいります。

（介護老人保健施設みみはら 事務長 伊与田 真也）

（介護老人保健施設みみはら 事務長 伊与田 真也）

シリーズ ④ みみはらの人

みみはら 十人十色

シリーズ4回目は、総合病院栄養管理課の溝井克志さんです。高校卒業後、同仁会に就職して調理現場一筋で働いてこられました。



患者さんに
おいしい食事を
届けたくて

1969年生まれ、大阪府出身。1988年に同仁会に入職し、働きながら調理師免許を取得するなど努力を重ね、現在は主任調理師として活躍中。

溝井克志さん
耳原総合病院
栄養管理課主任調理師

— 今の職業を選んだきっかけは？

学生時代から医療に関心があり、みみはらの調理部門で求人があったので、入院患者さんに美味しい食事を提供したくて就職しました。働きながら勉強をして、調理師の免許を取りました。

— どんな仕事ですか？

調理から、器への盛り付け、トレイに料理をならべるトレイメイクをして、患者さんに届けるまでが一連の仕事です。食事は第一印象が大切で、味付けだけでなく盛り付けなどにも気を付けています。

— 仕事で「良かった」と感じることは？

「やむ甲斐」は、担当者が交代で毎日、ベッド訪問をしています。味付けや盛り付けはどうか、食事で困っていることはないかなどお話を聞いています。患者さんに直接美味しいと思ってもらった時は本当にうれしいです。

— 大切にしていること、もの

は？

家族です。休日は小学生の子どもが参加している地区のフットボールを応援しています。

— ストレス発散方法は？

ドライブと晩酌。特に車が好きで、どこへでもドライブします。家族旅行も車で出かけます。夏には子ども達と海に出かけました。

— 自分にとって「みみはら」とは？

人生の半分以上をお世話になっています。自分を育ててくれた、患者さんや地域の方と活発に様々な活動をしていけたらと思います。

溝井さんは、安全でおいしい給食を提供するため、日々活躍しておられます。おだやかな口調で言葉数は多くはないのですが、美味しい給食を提供しようとする熱意が伝わってきます。「料理は味はもちろんだが、第一印象が大切」という先輩からの教養を、今もしっかり守っていると話すと、強い思いが伝わります。インタビューの途中で、ベッド訪問で集めたたくさんのアンケートには「酸味があって久しぶりに魚をたべられました」「我が子にたっぷりの栄養と『おいしい』をプレゼントすることができました。本当にありがとうございます」との声が寄せられています。患者さんに寄り添って希望に添えていくことに、喜びや誇りを感じているようでした。ドライブでは同じ職場で働く奥さまと3人のお子さんの子育てに奮闘中。晩酌やドライブでストレス解消して、これからも入院患者さんに美味しい食事を提供し続けていきます。